全日本私塾教育ネットワーク

私塾ネット広報

http://www.shijuku.net

第31号(平成22年７月号)

Photo by Joh Tadamichi

全日本私塾教育ネットワーク

センター事務局　石川　維雪
〒157-0072　東京都世田谷区祖師谷5-32-31　学燈塾内
TEL:03-6680-6542　FAX:03-6368-5489
Mail:center-office@shijuku.net

理 事 長　鈴木　正之
TEL03-5743-7458
広報部長　大住　明敬
TEL048－957-8608

特別寄稿　私塾ネット10年の思いと教育観

名誉会長　山口恭弘

私塾ネット四国の研修会「塾の半世紀」を語る山口先生。右は四国代表寺嶋先生。

私塾ネット十周年を迎えようとしています。このネットの創立に関わったことは私の人生の中で最も有意義な一こまとなっています。塾を手がけてざっと五十年。小学生対象の中学入試専門という限定付きながら、私の個人的な体験が今後のネット会員の皆さんの発展の参考になれば、との思いで筆を執りました。

スタートは借家の八畳間から

私が広島市の郊外で塾を開いたのは昭和三十（1955）年代初めでした。設立年月日がはっきりとしないのは、学生時代の家庭教師のアルバイトの延長線上に塾があったからです。当時面倒を見ていた子どもの保護者の方から「塾をしたら」と勧められ、塾の意味が分からず、辞書を引き「寺子屋みたいなものか」と納得したのをよく覚えています。

周囲に塾らしい塾はなく、学校の先生がアルバイトとして生徒を自宅で教えている―といった時代。借家の八畳間に座り机を並べてのスタートでした。ただひたすら子どもたちを希望の中学に合格させることに喜びを見い出し、専念しました。その後、進学熱の高まりのおかげもあって、生徒数が昭和四十（1965）年ごろには百五十人、昭和五十（1975）年代には五百人、平成（1989年）の初めには千五百人と順調に増えていきました。

昭和四十年代後半ごろでしたか。塾の増加とともに塾に対する風当たりも強まりました。曰く「受験競争をあおる」、曰く「詰め込み教育は子どもの自主性を奪う」…。甲子園や国体に出場するとなると、学校を挙げて朝礼などで賞賛し激励する。勉強ができても誰も振り向かない。「がり勉」と揶揄すらされる。こうした学校教育やマスコミのあり方に、私は常々、首を傾げていました。

学習態度の形成が塾教育のポイント

心は「知」「情」「意」で成り立っていると古くから言われています。「知」はもとより、「情」は国語などで養われる。「意」は自分で目標（中学入試合格）を見据え、それに向かって努力し、乗り越えることで鍛えられる。受験勉強が何故、貶められなければならないのか。

塾教育の中で、私が最も力を注いでいたのは学習態度の形成でした。入試突破という目標を心に刻み、易きに流れがちな自分をコントロールしながら、自主的に考え学んでいく。こうした態度さえ身に付けば、たとえ中学入試に失敗しても、高校・大学入試は言うに及ばず、その後の人生の難関に立ち向かっていけるだろう、との思いからです。

そのためには保護者の協力が欠かせません。「算数は親が絶対に教えないで、子どもに考えさすように。塾が習熟度別に指導します」「子ども部屋ではなく、親の目の届く茶の間で勉強させてください。もちろんテレビは消して」「ピアノなど習い事は六年生の十月まで。その後は勉強に集中し、入試後に再開するように」…。年六～八回の父母説明会、年二回の個人懇談会では、口をすっぱくしてお願いしました。電話での相談にもいとわずに応じ、子どもの状態をつかんでいきました。

生徒と保護者が「人生の先生」

積極的に勉強に取り組む子どもたちとそれを支える保護者たちの姿は、私に生きる意味を教えてくれました。子どもたちとその父母たちは私にとって「人生の先生」だったと心底、思っています。

今でも時々、かつての塾生の結婚式に招かれることがあります。その席上、新郎新婦やその同期生たちから「先生、塾は楽しかった」「もう一度、正月の特訓をしてみたい」と言われると、胸に熱いものが込み上げます。

私にはもう一人、「先生」がいました。塾の仲間たちです。私は昭和三十八（1963）年、東京の浅沼敏夫先生（故人）に誘われる形で旧全塾連に加入しました。以来、東京や広島などで催される色々な会合や行事で、多くの塾の先生方と出会い、お互い切磋琢磨しながら交流を深め、栄養分としてきました。

塾の浮沈を制するのは人材

単なる「塾」から「企業塾」そして「塾産業」―。こうした言葉の生成に見られるように、この業界もかつては想像すらできなかったほど成長してきました。塾が社会で認知されてきた歴史とはいえ、半面、塾が社会的責任を問われる時代になったともいえます。

この点で今後の塾の浮沈を制するのは人材だとの思いを強くしています。勉強を通じていかにして子どもの人格や学力を磨き上げるか。日々腐心する、教育力に富んだ塾の教師の育成は社会的な責任を果たす上で必須条件となるでしょう。それに向け、塾同士が手を取り合い、研修会などを通じてお互いを高め合う私塾ネットの役目はますます大切になると、私自身の体験から確信しています。皆さんのご健闘を期待しています。

理事長活動日誌

理事長　鈴木正之

７月４日、私塾で保護者会を開催した。出席した保護者の方々にアンケートを実施したが、今回、「都立高校無償化（私立も同額補助）について」聞いてみた。選択肢は、ア．都立を志望したくなった。イ．都立志望の理由の１つになった。ウ．あまり関係ない。結果は、あまり関係ないが６２％で一番多かった。しかし都立を志望したくなった、都立を志望の理由の１つが３８％。第一志望が都立か私立かの問いには、都立第一志望が６４％、どちらでもが３６％、私立第一志望はなんと０％。毎年この時期は第一志望が都立というケースが多いのだが、今年は都立に偏りすぎである。

高校受験は都立人気になっても、第２志望で私立に流れてくる。都立の受け入れ限度枠があるので、私立高校全体としては入学者の確保は出来るだろう。私は公立高校無償化の影響があるのは、中学受験であると考えている。とりあえず公立の中学に行かせ、公立高校受験という流れが出て来るのではないか。どちらにしても、私立中高は益々、差別化と特化を強いられるだろう。これは私学が益々良い教育機関へと変わっていけるチャンスとも考えられる。

しかし、公立と私立同じ土俵に上げないと平等な教育の選択ができない。日本を変えられるのは教育の力である。日本は一元的でその場しのぎの改革ではなく、未来を創造し、広い視野の元で教育を改革をしていく必要性を強く感じる。

〔主な出席行事〕

●５月９日（日）エリア四国研修会
山口先生を囲んだ研修会。歌とお酒で酔った懇親会。楽しく有意義な一時を過ごせました。

●５月２３日（日）ＮＰＯ塾全協研修会
今春の入試の分析を聞き、私学ピンチを実感した。特に中学受験はどうなってしまうのかと。沼田理事長、八戸に来ていただき有難うございました。

●６月６日（日）私塾協同組合連合会研修会
私事があり懇親会より参加。和やかなムードで懇親会が進み埼玉のみなさんとお会いでき良かった。坂田理事長、これからも良い関係でいたいです。よろしくお願いいたします。

●６月１７日（木）エリア関東定例研修
田中宏道先生の塾舎での研修会。保護者会の実演をしていただいた。参考にさせていただきました！

●６月２８日（月）全日本学習塾連絡会議
約２０名の参加。参加団体は、全国組織から地域限定の組織まで、会員数も１００名以上の団体から数名の団体まで幅広い。この会の良いところは、その団体が公平に発言できるところだ。今回初参加の団体もあり興味ある話を聞くこともできた。本来の連絡会議のあり方は、団体間の行事日程の調整だけではなく、その調整した行事への協力、そして会員への告知による行事への相乗りが大切であると思う。せっかく手間暇かけて開催するものならば、多くの方に参加して欲しいのではないだろうか。佐藤勇治先生には一苦労かけそうだが、私もお手伝いし連絡会議をより有意義なものにしていきたい。それが、学習塾業界の活性化になると考える。

緊急人材育成事業を終えて

いぶき学院　鈴木正之

今首都圏の塾では、厚生労働省が所管する緊急人材育成支援事業による職業訓練講座（基金訓練）を実施する塾が増えている。この事業は全国学習塾協同組合と全国学習塾協会が窓口となり開講の指導をしている。はからずもその第一号の事例となったのが私塾ネット鈴木理事長のいぶき学院（品川区）であった。そこで訓練終了後の感想を当事業の問題点を含めレポートしていただくこととする。
尚、当事業に興味のある方はいぶき学院に問い合わせいただくか、厚労省のホームページを検索願いたい。

３月２４日、６ヶ月の訓練が修了しました。まず関係者の皆様にお礼を申し上げたいと思います。当塾は、当初６名でスタート、２ヶ月目に１人辞められ５人となり、５人が最後まで続けられました。

１０月１日、東京での学習塾が行う基金訓練の第１号として始めさせていただきました。塾経営を楽にしようと始めた訓練ですが受講生が集まりませんでした。森先生、磯先生の所と一緒に１ヶ所にまとめてという話があり、当塾に申込のあった４名に磯先生から２名を預かり６名集まりました。最終的に開始の決断をしたのは、受講生の話を聞いていると辞められない気持ちになったことです。最初の申請４塾の『先ずどこかが始めることが大切』であると考えたこと、そして『学習塾でも受講生に喜んでもらえるような訓練が出来ることを証明してやろう』・・・採算ギリギリですので収益をあげるという目的を変えないと実行できなくなっていました。私は全国学習塾協同組合の理事であり、この事業を正式にＡＪＣの事業とすることに賛成した者です。ですから、なお

さら自分が最初にやって、そこからわかったことを伝え、システムの改善に役立とうと考えました。自分がやって苦労したり、うまくいかなかったことを皆さんに繰り返させることは絶対に嫌でした。うまくいったことも伝えて皆さんに喜んでもらいと思いました。

受講生の方々に対しては完全に一人ひとりに入り込み、塾生に対している感覚となりました。しかし、塾生とは違う難しさ、小中高生相手の授業とは比較にならないほど、この基礎演習科講義が難しいことを、身をもって知ることになりました。もちろん、ただやるだけだったら誰でもできますが、全員が納得のいく講義をするとなるとそうはいきません。他の先生の講義の際も、休み時間等で受講生とコミュニケーションを取り、しっかり学んでいるか、困っている事は無いかをチェックし、悩み事は何でも相談できる関係作りに励んだつもりです。

税金で賄われるこの事業。受講生が６ヶ月後に変われるよう、成長できるように、喜んでもらえるようにする。講師の方もやり甲斐をもって指導できるようにする。それが我々訓練校の喜びであると考えます。訓練を始める皆さんには、本業は学習塾であること、人の人生を背負う覚悟がないと出来ないことも、理解していただきたいと思いました。

５人という少人数、しかも受講生に恵まれたこともったと思いますが、少なくとも、受講生に喜んでもらえる訓練が『学習塾だって出来る』ことは証明出来たかと思います。退所式（修了日）に「定期的にみんなで会いたい」、「ふらっと、来るかも知れない」、「相談しにきたときにはよろしく」と言われ、卒塾生と同じ感じです。受講生の皆さんと６ヶ月共にさせていただき、本当に勉強になりました。自分が変わった気持ちになっています。受講生には感謝です。

私塾実践同攷会

―明日の子どもたちと私塾教育研究の発展のために―　エリア四国　十亀幸雄（十亀塾）

2007年10月の私塾ネット四国の研修会で、山口恭弘先生に私塾での授業研究の会の必要なことをお話ししたら、「やってみてはどうですか。」と励まされました。2009年２月、「この忙しい時にどうしたことだ。」と皆さんに叱られながら、山口先生を迎え四国で総会を開催して発足しました。会の運営は、左記のように山口先生を中心に世話人の方々でされています。

顧問／山口恭弘、世話人／楠山敬志・近藤誠介・真田和人・十亀幸雄・山田明子、事務局／十亀幸雄（TEL０８９－９０５－２９２５）

現在までで会員数は31名、その３分の２は私塾ネットの会員で、３分の１は高知・徳島・香川・愛媛の地元の先生方です。私塾教育研究を継続的に行うため毎月、「ニュースレターじっせん」を発行して、誌上で意見を交換しています。現在２１号まで発行しています。また、ニュースレターの冊子版といえる会誌『実践』も刊行しています。

ニュースレターの目次の一部です。この時代の塾人として（楠山）／チームティーチング（広瀬弘章）／チームティーチング、アンケート調査／ハッセの図式から正八胞体まで（山本尚史）／人を伸ばす（仲野十和田）／エイブルの理科オリジナルテキスト（田村純子）／中学英語万歳（山田）／アイスブレーク（田中宏道）／古くて新しきこと、授業こそ最高のPR（山口）／イメージが学力をつくる（十亀）。

また、ニュースレター発行地の松山ならばと当地に縁の深い谷村志厚先生を中心に句会も毎月誌上で行っています。選句高点句：病葉を抱いて水面の花弁かな（香車）／凍て返る始業のベルや試験場（酒肴）／サックスの響きと共に冬の空（ましゅう）。

本会の活動は微々たるものです。一人の偉い先生に学んでいくというものではなく、皆が自塾での実践を報告しそれに共感して意見を交換するものです。会誌は、塾教育の前線に立つ先生方が日々の授業を単に報告したものに過ぎないかもしれません。しかし本会が、明日の子どもたちや夢をもって私塾教育に携わっている全国の多くの先生方のための小さな一里塚になれるとしたら、それはそれで望外の喜びです。ご一緒に、よりよい授業・塾作りをしませんか。

チームティーチング指導研究

湯けむりの会

6月27日～28日　エリア中部

「電車で来られても最寄駅から午前中に１本、午後に２本しかバスが出ていません」
という旅館からの返答。「これは、秘境だな」という思いをわくわくさせて、車で向かったのは、長野県の横谷温泉旅館。久しぶりの『湯けむりの会』の参加でした。メンバーは、松本先生、原先生、三松先生と私仲野の４名。温泉は、渓谷に沿って露天風呂があり、最高のロケーションでした。この会は、のんびりと時が流れる感じがして、私はとても好きなのですが、夜は、松本先生とゆっくりお話ができました。すると、聞いているうちに感じたのですが、春の全国研修で聞いた星野リゾートから派遣されている、『青森屋』の総支配人佐藤大介さんのお話。「星野は理念を分かりやすく下に伝えてくれる」。　松本先生も理念を伝えることにとてもエネルギーを注がれている方で、その実践例は大変勉強になりました。

翌朝は、旅館近くの『乙女の滝』（写真）を見に行きましたが、『乙女』とは名ばかりで、かなり勢いのある滝でした。その後、原先生が「終の棲家？」として昨年建てられた家（お庭はまだ未完成）というのが、すぐ近くだということで、ずうずうしくお邪魔してしまいました。「家は広報に載せるな」と言われましたので多くは語れませんが、とにかく『こだわりの一品』です。その後、１時間ばかり、リビングで原先生の半生を聞かせていただきましたが、いやー、愉快な生き方をされています。楽しいひと時を過ごさせていただきました。

さて、気分良く中央高速を走っていると、前に変な車が…「パトカーの後ろについてきてください」。あちゃー。

レポート：仲野十和田（ナカジュク）

原先生こだわりのご自宅で、日本庭園を背景に。

乙女の滝にて。右より三松、松本、原先生と仲野。

ナカジュク(エリア関東仲野十和田代表)創立２５周年、はじけるナカジュクパワー！

平成２２年６月１３日（日）、さいたま市文化センターにて、『ナカジュク２５周年記念式典』が行われました。第１部は生徒さん、ご父兄を対象とした催し物が行われ、第２部では卒塾生や講師、先生方の親類の方、塾関係者が集い、盛大な式典が執り行われました。

まず始めに行われたのが、塾長とスタッフ全員の総勢１５名による「よさこいソーラン」。その見事たるや、メイキングビデオまで用意されていてのは、スタッフの意気込みを感じずにはいられませんでした。その後仲野塾長は筋肉痛でフラフラはしておりましたが、、、遅れてしまいましたが、今回の式典のテーマは「自由の城　ナカジュク」。これはかつて仲野塾長がまだ学生だったころ、学校の近くにあった『青山劇場』をご覧になった時に、「自由の城」という言葉に目が行き、「自分も、将来こういう場所をつくりたいなぁ」と思われたことが今回のテーマにつながったそうです。『みんなが自由に集い、楽しめる居場所』まさに今のナカジュクそのものが言葉通りの居場所になっていることは、既にご存知の先生方も多いはずです。

さて、圧巻のよさこいソーランの後は、ナカジュクお得意の、卒塾生の岩崎君を中心にナカジュクの講師数名が加わった、「ナカジュクドリフターズ」による「ドリフのコント」。これは、ナカジュクのイベントの一つである「スキー教室」や「Ｊーフェスタ」などで披露しているもので、大爆笑を誘っていました。その後は、これも仲野塾長お得意の「ムービーコーナー」ナカジュクの歴史をムービーにまとめ上げ、観客の方々も懐かしさに目を細めておられました。僕（渡辺塾　渡辺浩）も１０年ほど前にナカジュクで教室長をやらせていただいた経緯もあり、自分の写真が何枚も出てきたときは、当時の記憶が鮮明に蘇ってきました。

お嬢さんとのジョイントで素敵なパパぶりを披露

そして、最後のクライマックスは仲野塾長とスタッフによる自前バンド「昭和ジャンプ」（名付けたのはもちろん仲野先生です！）の歌謡ショー。仲野先生のギターの腕前はご存じのとおりですが、このスタッフの腕前がプロ級（ちょっと褒めすぎかな？）。ご自慢の歌声を披露し、終わりかなと思いかけた次の瞬間、仲野先生と娘さんの日奈子ちゃん（高校１年生）の２人だけの演奏が始まりました。日奈子ちゃんのピアノと仲野先生のギターで最後を締めくくり、散会となりました。

思えば５年前、僕は２０周年記念式典にも参加させていただきましたが、仲野先生は、というよりナカジュクは本当に人を大切にする塾だなぁとしみじみ思います。自分自身が中にいたせいもありますが、そんなナカジュクと少しですが関わりを持てたことは自分自身にとっても大変有難いことだと思います。これからも３０周年、４０周年、１００周年と続いていきますよう心から願っております。

（文責　私塾ネット関東総務部長　渡辺塾　渡辺浩）

塾長と職員による「よさこいソーラン」でナカジュクパワーがさく裂

塾主催イベント研究　その④　AIM学習セミナー

◆土曜学習保育

２００２年の学校土曜休みの始まった年、ＡＩＭでは小学生を対象としたＡＩＭくらぶ・学習保育という講座を開設しました。それは商店街の知人が「土曜日に子供が家でごろごろしていて困る」とふともらした一言がきっかけでした。この地域には以前から学童保育が定着しており、我が家の娘もお世話になった経緯もあり、塾版の学童保育ならぬ学習保育というアイデアが浮かびました。

対象は小学１年生から６年生。時間は毎週土曜日午前９時から１２時３０分。カリキュラムは算数（計算中心）、漢字（漢検に対応）そして体験学習。体験学習はオプションタイムと称して理科実験・工作からフラワーアレンジメントといったカルチャー、さらに施設見学等の小遠足まで実行しました。

開設以来８年、この間いつも10～15名程度の子供たちが在籍していましたが、経営上の収益面ではさしたるものではありませんでした。しかし、年度替りには正規の塾生として入塾してくれる子供が多く、減少気味であった小学生の供給源としての貢献は多大であったと思います。

◆おもしろ体験教室

２００９年２月、足かけ８年に及んだ学習保育講座を閉鎖しました。学校土曜休みへの対応といった当初の役割は終えたというのが閉鎖の理由でしたが、本音のところは毎週土曜の午前という、自分にとっては貴重な時間がうばわれるのがきついという個人的な理由でした。

そして１年、懸念したとおり小学生の入塾がピタリととまり四苦八苦。そこで２０１０年３月、小学生の確保を大命題に開始したのが「さいえんす&かるちゃークラブ・おもしろ体験教室」です。実施日はいずれも土曜の午後１時～３時３０分の９０分です。

第１回おもしろ体験教室

2010年3月27日　参加者13名

■サイエンス　静電気のふしぎ
　電気クラゲで遊ぼう

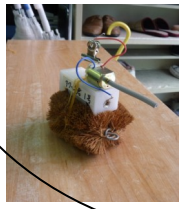
□カルチャー
　手づくりABCカルタ

第2回おもしろ体験教室

2010年5月1日　参加者10名

■サイエンス
　走るタワシ「タワッチ君」

□カルチャー
　ABCゲーム＆リサイクル工作



第3回おもしろ体験教室

2010年6月19日　参加者14名

■サイエンス
　手作りペーパーブーメラン

□カルチャー
　ABCゲーム＆フルーツゼリー作り

過去３回の事例は別掲の通りですが、いずれの回も参加者１０名を超えその３割は塾生外です。すでに体験後入塾に結びついた例も複数あり、小学生募集へのたしかな手ごたえを感じています。それに加え、純粋な子どもたちの好奇心に満ちた瞳に出会えることは、塾人としては貴重な副産物といえるでしょう。

第４回の体験教室は７月２４日を予定しています。メインテーマは「手づくり夏パーティー」でサイエンステーマは炭酸水素ナトリウムを使っての「ラムネ作り」、カルチャーは「ミニケーキ作り」です。

中学受験や個別指導塾以外では小学生が集まらない首都圏学習塾、子供達の目線で好奇心を共有できる体験を通じて、子供達の話題になる塾づくりを目指したいと思います。

ＡＩＭ学習セミナー代表　谷村志厚

第5回全国模擬授業大会
私塾ネット関東　高橋直子先生　見事優勝！

レポート　岩瀬善孝（ナカジュク）

5月30日（日）栃木県足利市で行われました「第5回全国模擬授業大会」に参加しました。この全国模擬授業大会は栃木・群馬を中心に展開される開倫塾の所属機関である開倫研究所が主催で行われ、全国の学校、塾の先生の指導力を高める目的で年に一度開催されています。

今回は昨年に引き続き『チョーク一本で教育改革を』を基本テーマに掲げ、授業者46名および審査員30名、見学者を合わせ約250名が参加者しました。予選（小学部門、高校部門、中学部門・４科区分（数学・英語・国語・理科社会）の計６クラス、審査員各５名）と、各クラス１位による決勝（計６名、審査員３０名）で行われました。持ち時間は１５分で、学習事項の「導入部分」をわかりやすく納得のいく授業をすることと共に、時間内で生徒の意欲喚起を促す「武者語り」（勉強の必要性や学習の面白さなどを語る）も審査の対象になります。

昨年、私はこの模擬授業大会を見学しました。見学しているだけでとても楽しく、非常に大きな学びがありました。ですから、今年は模擬授業大会に出場しました。大会に参加するに当り、私は自塾の塾長やスタッフの前で8回模擬授業を行いました。録画もしました。その度に改善点が見つかり、授業は徐々にブラッシュアップされていきました。「わかりやすい説明」「チョークの持ち方」「見やすい板書」「声の出し方」「立ち位置」などさまざまな気付きを得ることができました。

明るくテンポよくそして愛情をこめて

優勝した津田沼学院の高橋直子先生の授業は笑顔に溢れていました。「マラソンの苦手なたかはしなおこです。」とインパクトのある挨拶で始まり、テンポよく、生徒に答えさせたり、一緒に声を出したり、生徒が積極的に参加する授業でした。そして、

最後は授業に来てくれた生徒への心からの感謝で終わるという生徒への愛情の伝わる授業でした。

以下にはナカジュクのメーリングリストでの模擬授業大会の感想を載せさせていただきます。
全体を通して印象に残った所です。

今回学んだことは、「全員をいかに自分 の空気に巻きこんでいるか」そして「笑顔」と「感謝」でした。テンポというかリズムをお持ちの方は「こっちを向いて」と言わなくても自然と手を止めて前を向いてしまいます。とにかく全員参加を意識しているか。模擬授業と授業準備の賜物だと感じます。そして笑顔。とにかく「褒める」ことが上手な先生は生徒の声をよく聞き、受け止めそれをそのまま「すぐに」「笑顔で」褒めています。

最後に感謝。今回武者語りの部分を入れるようになっていましたが、その内容がお説教や教えてやろう、という気持ちから伝えているものよりも「来てくれてありがとう」という心から伝えている方がとても心に響きました。

（副塾長　越谷・高島平教室　小野田光伸）

去年参加した際、野田塾の小川塾長から「間違い例をあげる、間違わせる、のが重要」という話が出ていました。優勝した高橋先生は、複数形のSのつけ方を、一つ一つ間違わせながら進めていく、というものでした。自分の表現したいもの表現するために、努力と経験を積み重ねる、そういった意味で今回も非常にレベルの高い場でした。

（高島平教室　　西中伸）

最初の挨拶から、生徒の姿勢の正し方をもっと自分はしっかりさせなければならないと思いました。声が通るかどうかも非常に重要で、声が大きいというのではなくて、通るように話すことが大切です。授業の導入部分では、絶対に難しさを植えつけないようにしなければならないと感じました。簡単だという先入観、自分はできるという気持ちを持ってもらえるような授業、それは、武者語りで話すこともできますが、できれば、問題を解いていくうえで、感じさせたいです。一人一人の意見をしっかり受け止め、間違っていてもその意見を切り捨てるのではなく、拾っていこうと思います。そして、褒めることも必ずしていきたいです。見学させていただいたどの先生も板書がきれいでした。図形も正確でした。生徒を飽きさせない授業、この先が聞きたいと思わせる授業を目指します。優勝した高橋先生が言われていたこと、「授業の前に元気がなかった生徒

が、授業後、元気になれるように」そういう授業を目指します。

野田塾の小川先生のお話は非常に感動し、かつ示唆に富んでいました。授業の最初に説教はしない。武者語りで説教はしない。笑顔が大切。「面白くてためになる授業」を目指して欲しい。導入から結論までをできるかぎり短くすること。余分な言葉をいかに捨てるかが重要。板書を軽んじてはいないか？板書は生徒が後で見たときにわかるものでなければいけない。授業は奥が深い。ゴールまではものすごく遠い。「その授業で目指すものは何か」をしっかり認識していかなければならない。当たり前のことだとは思いますが、絶対に忘れないようにしようと思います。　（越谷教室　副教室長　飛澤尚弥）

今回は参加したナカジュクの職員はたくさん勉強させていただきました。ありがとうございました。

文責　ナカジュク　岩瀬善孝

第5回全国模擬授業大会に参加して

津田沼学院　高橋　直子

去る5月30日、栃木県足利市で開倫塾主催の「第5回全国模擬授業大会」に模擬授業者として参加しました。この大会は今年で5回目を数え、第2回・第4回はLAPIS(千葉)の田中宏道先生、第3回は東大アチーブ(千葉)の高木昭先生がそれぞれ最優秀賞を受賞されました。おかげさまで私も今大会の最優秀賞を頂くことができました。

実は私は昨年もこの大会に参加したのですが、結果は予選落ち･･･。何度も練習をして臨み、その時は自分なりに満足のいく内容でした。しかし結果を出すことはできず、人生のトップ3に入るかと思うほどの悔しさでした。それから一年が経ち、再び参加するのは正直なところとても迷いました。また予選で落ちたら･･･、やはり辛い。しかし、「このまま逃げてはいけないな」と思い切って申し込むことにしました。事前の練習で家族やスタッフにかなり付き合ってもらったので、彼らに一番喜んでもらえるお土産をもって帰りたい、と思いながら会場に向かいました。そして当日は、見学されている方々に「この先生の授業を見られて良かったな」と思ってもらえる授業をしよう、と心がけました。

ここに全てを書くことができないのが残念ですが、家族やスタッフ以外にも応援してくれた方々の存在が私の大きな力になりました。今回の受賞は私一人の力ではありません。今まで関わりのあったすべての皆様のおかげです。綺麗ごとなどではなく、すべてのことに感謝したい、そんな気持ちでいっぱいになりました。ありがとうございました！私も少しでも多くの人のお役に立てるようにこれからも一生懸命頑張ります！！

全国から参加した260人が見守る中、47人の塾講師が挑戦、最優秀賞には初の女性が選ばれた!

5月30日、栃木県足利市の足利工業大学附属高等学校において、恒例の第五回全国模擬授業大会（主催・開倫研究所=林明夫代表、共催・青木経営フォーラム、（株）私塾界）が開催された。

同日参集した教育関係者は学習塾関係者を中心に約260名。そのうち全国から47名の学習塾講師が小学部、中学部英語、数学、国語、理科・社会、高校部の六部門に分かれ、日頃の教え方を競った。まず、各部門で予選（7～8名の授業者、審査委員五名）を行い、部門ごとのトップを決定、のちトップ6名が決勝に進出、審査員30名全員の評価で、受賞者を決定、各賞を授与した。

今回の最優秀賞及び私塾界特別賞に輝いたのは、千葉県津田沼市にある津田沼学院の高橋直子さん。同大会は5回目を数えるが、女性講師の受賞は初めて。高橋さんが授業をしたのは中学1年生の英語、複数形で、そのわかりやすさ、パフォーマンス、抑揚とメリハリのはっきりした授業に、審査員のみならず、参加者全員が大きな感動を得たようだった。

なお、審査委員長の野田塾塾長・小川英範氏は同会の閉会式講評で次のように述べた。

「塾は最後の最後は授業力です。こうした模擬授業大会がこれをきっかけに全国に波及すればよい。授業について、今回の大会でいくつか気がついたことがあるが、とにかく授業はものすごく深い、ということだ。これからもより研鑽を積んでほしい」。

←全国模擬授業大会の様子を伝える月刊私塾界6月2日掲載のブログ記事

エリア通信

エリア関東　代表　仲野十和田（東京・ナカジュク）

学校説明会も様々な思考を凝らして、感心させられることがありますが、そんな中で、印象に残っている説明会を紹介させていただきます。ここでは、（賛助会員ではないので）私立K中学とします。というより、K中学が新たに開設する中学なのですが、表向きは「偏差値を１０アップさせる！」という内容の生徒向けの勉強会で、参加は誰でもできます。実際、その学校の生徒さんも数人きていました。１時間位、校長先生が成績を上げるための話を、面白おかしく行い、後半は新しい学校とその先生たちの紹介です。その校長というのは県教委から来た方で、最初の役割は、既存の学校の授業を見学し改善することでした。全ての授業をチェックし、担当の先生に指示を与えたということです。「授業」にきちんとメスを入れている学校というのは、意外や少ないのではないでしょうか？そして、新設の学校に携わる先生方の紹介では、校長がそれぞれの先生のエキスパートぶりを伝え、如何に信頼しているかが伝わってきました。また、先生方のメッセージからは、仕事のやりがいと「校長に就いていきたい」、という思いが伝わってきたのが印象的でした。

国語の先生が、「氷は解けると～になる」これは理科的な表現で～には「水」が入る。
では、「氷が解けると～になる」これは国語的な表現で～には、「水」でも「春」でもいい。
そんなことをHPに載せているので見てください。

そして、最後の校長の言葉は、
「私たちは、そんなに成績の高い子は望んでない。中位いの子を大きく伸ばしたいのです」
日曜日なので付き合わせた我が子も、
「この学校は入りたくなっちゃうね」とひと言。
ソフト（先生）をスキルアップし、それを如何に表現していくか？
そんなことを考えさせられた、説明会でした。

エリア中部　代表　松本　紀行（長野・チャレンジ学院）

連日の如く、夏期講習のチラシ、新聞広告、テレビコマーシャルが目に飛び込んできますが、首都圏では、何倍もの募集合戦がされているのではと推察しております。更に東大進学会、明光義塾、甲斐ゼミと県外からの攻勢も強まっております。このような中で私共もこれに負けじと新設校を開校致しました(写真)。更に、塾業界では昨年に引き続きＭ＆Ａの嵐が吹き荒れておりますので、注意深く見守りたいと思ってます。塾業界が音を立てて大きく変わろうとしている中で、私達の生きる道を模索していかねばと焦りを感じます。

反面、７月１１日（日）に行われましたＮＰＯ全国教育ボランティアの会主催「生きいきワクワク親子の集い」にナント２４０名を越す人達が集い、和気あいあいと交流をしている事に何かホッと温かいものを感じるとともに、塾のよさや社会的価値の向上に尽力されている方々に心から敬意を表したいと思います。

6月27日（日）、茅野市蓼科の横谷温泉にて恒例の「湯けむりの会」を行いました。鉄分を沢山含んだ温泉が名物だそうで、豪快な露天風呂も味わいあるものでした。こんな身近な地元で会合を持つことは初めての事だったんですが、なかなか良いものですね。仲野先生を中心に乙女滝を見物に行きました。乙女らしからぬ荒々しさが意表を突くおもしろさで、ワイワイしながらマイナスイオンを心行くまで吸いこんできました。音楽好きの仲野先生はホテル内で行われていたナイトコンサートを楽しんでおられました。宴会の席では相変わらず楽しい原先生と、いつも温かい三松先生との名コンビが絶妙の味を醸し出しておりました。感服させられたのは、仲野先生の塾舎で色々と工夫されたコースを創設されていたことです（もっと色々お聞きしたかったなあ）。特に宣伝媒体としての「うちわ」は、来年真似させていただこうと思っております。今回は石川先生が腰痛で急遽来られなくなったことがとても残念なことでした。一日も早く回復されることを願っております。

新設チャレンジ学院中信本部

エリア中国　広報　西本雅明（広島・パワーゼミ西本塾）

エリア中国は，佐藤先生を代表とする新体制に移行し，事務局（田中弘樹先生），研修担当（河濱先生），広報担当（西本）が決まり，仕事が分担できる体制になりました。私自身は具体的に何をすればよいのかまだ分からない状態ですが，ひょっとすると毎回エリア通信を担当するのかもしれません。もしそうなったら，修行のつもりで頑張ります。

エリア中国では定例会を広島県西部の広島市で開催しますが，年に一度，7月の会議は広島県東部地区の福山市で開催します。特に今回は田中学習会の福山駅前校（今春新規開校）を会場にお借りしますので，メンバー間の情報交換もさることながら新校舎見学をとても楽しみにしています。

さて，ここからは私事。「エリア通信を私事で埋めるとは不謹慎だぞ！」とお叱りの声が全国から聞こえてきそうですが，締め切り期限ぎりぎりの今回は，どのような罵倒にも耐えなければなりません。しつこいようですが，以下は紙面の埋め草です。よほど暇な方々のみ読まれることをお勧めします。嘘ではありません。なにしろ私が塾を始めた動機のお話なのですから，恥ずかしながら究極の私事です。さてさて，本題。「無邪気な子ども達とワイワイ言いながら暮らせたら気楽に違いない。海千山千の大人と付き合うよりはましだろう。」という，暢気で浅はかな考えから塾を始めてしまいました。しかし，子ども達は見た目ほど無邪気じゃなく，大人も海千山千などではなく，意外に子供以上に無邪気だということに気がつきました。大人嫌いから始めた仕事でしたが，地元の任意団体への参加を皮切りに学習塾協会は顔を出しているうちに抜けられない状態になり，私塾ネットにご紹介いただいたあたりから人に会うのが楽しみになってしまいました。私塾ネットには強い麻薬作用がありますから，私と似たような優柔不断タイプの方はぜひお気を付けください。ちなみに，私はてんびん座・O型です。

エリア四国　代表　寺嶋　謙次（香川・学習院セミナー）

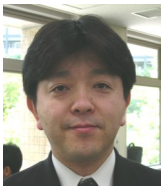
先日、真っ青な空を見上げながら、大阪で開催された大手塾のセミナーに参加して来ました。今回のセミナーには、特に目的があったわけでもなく、「何か役に立つ話（おいしい話）が聞けるといいな」という軽い気持ちで参加したのですが…。

しかし、行ってみるものです。自塾で何が問題なのか、自分が何を求めているのか、がはっきりとわかりました。それは、「校舎長（教室長）の育成」です。そのセミナーで、特にそのことについて話があったわけでもないのですが、「校舎運営で最も大切なのは、校舎長である」「校舎長が塾を決める」という、言われると当たり前の言葉が耳に入ってきて、思わず「ウム、ウム」とうなづいたものです。

校舎展開（教室展開）を考える際に、いつも「校舎長の頭数が足りないな～」と悩んでいるにもかかわらず、なぜか研修をしているのは新人ばかり。校舎長（候補）研修まで考えがいたりませんでした。「校舎長にはどういう人が適当なのか、その適用基準は？」「校舎長（候補）を育成するには、どういう点が重要なのか？その研修システムをどう構築するのか」という、新たな（？）経営課題をくっきりと浮き彫りにしていただき、これからまた「校舎長」に関するセミナーを求めて、全国を歩き回りたいと考えています。

実は、もう一つ収穫がありました。そのセミナーは、全国展開をしている塾が母体となっているのですが、そういう「大手」と言われる塾でも、実は地域の実情に照らし合わせて「仕組み」を変えていると事実です。言われるとこれも当たり前です。全国展開しているからこそ、いろいろな地域の特殊性に直面するわけです。それにどう対処するのかは、避けては通れない問題でしょう。しかし、「全国展開するからには、一律の基準で」というのが、なんとなく当たり前のように感じられていたのです。

こういう時代だからこそ、「もっときめ細かやかに」と心を新たにした「その日」でした。



エリア東北　代表　畑山　篤（青森・志学塾）

この原稿は、明朝一番で行う「出前塾＠白梅学園清修中学」に講師としてお招き頂いた関係で、最寄りの国分寺駅前のホテルで書いています。生来の不勉強のために大学受験に失敗し、浪人生活を送ったのがここから北東に数kmほどの西武柳沢で、やはり不勉強で国家試験に在学中には合格できず勤めた会計事務所の寮が、ここから東に数kmほどの武蔵境でした。久しぶりで故郷に帰ってきたような感じもしますが、右を見ても左を見ても人、人、人…やはり本州最北の地青森県の地方都市とは違う賑わいに驚きの気持ちの方が強いのかもしれません。そして、この辺りの塾の月謝はいくらなんだろうかなどと下世話な思いがすぐ頭に浮かんでしまいます。

八戸市は人口２４万人で中学校数が２５校、中学３年２７百人、２年２６百人、１年２５百人です。塾の数は電話番号では１００件ほどありますが、私の感覚では３０教室ほどでしょうか。少子化、不景気…というキーワードには慣れっこになってきた今日この頃ですが、今年の夏期講習は特に酷いような気がします。チラシを折り込んだ地元の塾は１つし

かないようです。「夏は受験の天王山」「夏を制するものは」…。訴えなくていいんでしょうか。と言っている私の塾も折り込み路線から転換して１０年になります。

そう言えば、先日国税庁から発表になった路線価が１０％も下落という記事を見ました。土地が売れないから価格が下がったのかもしれませんが、「八戸では下がっても買えない、下がりすぎて売れないのです」という業者の声も聞こえてきています。

塾の教室でも１坪あたり売上という数字を考えたとき、昔々簿記で習った「機会原価」という言葉が頭をよぎります。確か、採用できる選択肢が複数ある場合、もっとも有利な選択肢を選ばなかったら…という経営者に対する投げかけのような考えだった気がします。この教室で塾を選ばず喫茶店にしたら、寿司屋にしたら、カラオケＢＯＸにしたら、自販機を並べるだけにしたら…。夏期講習会を目の前に、この自問自答はあと何年続くのでしょうか。

さて、このように中３通塾率３割という土地柄から生まれたＯＫ！学習法はお陰様でこの７月より正式に「勉強部活＠尚絅学院中」と「勉強部活＠生文大高」が仙台市でスタートし、私たち上級指導者が「学習ドクター」という立場で学習のアドバイスをすることとなりました。これからも地域教育の新しい形をご報告できるように明日の出前塾を精一杯努めさせて頂きたく存じます。

※白梅学園清修中学校
http://seishu.shiraume.ac.jp/

広報誌の夢を追って

私塾ネット広報部　大住明敬（聖学舎）

私塾ネットの広報を担当するようになって2年が経とうとしています。年4回の発行ですから８号分にかかわってきたことになります。今回が３１号ですから４分の１かかわったことにもなります。

聖学舎は５０人くらいの生徒をお預かりしている小さな塾ですが、広くいろいろな情報に接し、多くの塾人とお仲間になりたいとの思いで加入しました。私塾ネットで広報発行のお手伝いができることは本当にありがたいことです。お陰さまで多くの先生方と面識ができ、多くの情報を得ることができありがとうございます。これからもこの広報を通して、多くの皆さんと情報を共有することができるようにしたいと考えています。

そのためにも、また私塾ネットの発展のためにも広報にいろいろな課題を突き付けていきたいを思いますし、また皆さんがたからも、忌憚のないご意見を頂戴したいと思っています。

課題

①制作の拠点が関東に重きを置く点の改善
私塾ネットの良さは全国の皆さんが一つにまとまっていこうとする点にあります。今年、青森で行った全国大会はまさにその象徴ともいえるものでした。地方の皆さんの活力の大きさを知り、その力を広報の紙面上にも活性化させたいと考えています。
そのため各エリアごとに広報担当の先生を決めていただき、より詳しい情報の伝達をお願いしたいと提案いたしました。四国、中国からは早速に担当者を決定下さりありがとうございます。これを各地にお

誌上句会　第四回

選者　梶原賢治（私塾ネット副理事長）

駈けのぼる　坂に続いた　夏の雲
カナカナの　止みてさみしき　夕まぐ
中村直人

七月や　読谷村の　象のオリ
八月の　朝起こされり　鐘の音
十亀幸雄

爆風で　猛火で散らむ　語り継ぐ
黒い夏　川に満ちる　被爆人
いつまでも　川の遠鳴り　赤レンガ
石田正治

水無月の　闇の底から　黄金虫
青田から　声明(しょうみょう)溢る　里の闇
谷村志厚

残像で　帰る花火の　夜道かな
向きあいて　ハイビスカスの　赤の宴
梶原賢治

編集部からお願い
句会への投句をお願いします。次号は10月末発刊ですので、秋の季語で、お一人四句までとします。投稿はメールshikot@ainet.cojo またはFAX047-368-2189 谷村宛、締切は10月20日です。

願いし、よりよい紙面作りをしたいです。

②私塾ネットは社団や組合のように規則に縛られたかたぐるしいものではないと思います。ましてや、その広報誌は自由にモノ言える場ではなければならないでしょう。ですから、もっと自由に塾人たちの思いを述べあうものにしたいです。

③広告スペースなど設けて、発行経費をそれで支払われるようにしたいですね。また原稿を書いた方に原稿料をお支払できるようなシステムも作りたいです。業者によっては広告掲載を考えてくれるところもあるやに聞きます。そのためには、もっと部数を増やすことも必要ですね。

夢はどんどん膨らんでゆく。でも現実に押し流されないように、一歩一歩進んでゆきましょう。まずは、夏期講習の成功です。

AIMでの広報製本と発送作業風景。左端が大住広報部長。右回りに高橋、竹内、谷村、鈴木、渡辺さん。ちなみに右下はAIMのマスコット犬のジャック。撮影は仲野さん。

私塾ネット広報バックナンバー。第一号は２００１年８月発刊。第６号からカラー表紙に変わり以降30号まで同スタイルを踏襲。

渉外部報告　渉外部部長・佐藤勇治

１　全日本学習塾連絡会議

第93回全日本学習塾連絡会議
『教育ネット要覧』十周年記念誌　発刊報告会
（１）日　時：平成22年6月28日(月)
　　10：00－正午
（２）会　場：新宿ＮＳビル　3階（301会議室）
（３）出席者：16団体／18名
（４）費　用：無料
（５）議　事：
司会進行
埼玉県私塾協同組合　理事長　坂田義勝先生

第93回全日本学習塾連絡会議は、私塾ネット理事長鈴木正之氏の開会ご挨拶の後、出席者の自己紹介、各団体の行事報告と行事予定の発表がありました。

各団体の平成22年度行事報告は、坂田義勝先生（埼玉県私塾協同組合）、鈴木正之氏（大井町から教育を考える会／私塾ネットセンター）、宮澤　歩専務理事（千葉学習塾協同組合）、菊池正文理事（茨城県学習塾協同組合）、高尾昭生事務局長（ＴＳＫネットワーク）、古本真成代表（社団法人・教育振興連合会）、松田邦道副会長・幹事長（民間教育連盟・全国教育問題調査会）、佐藤勇治事務局長（NPO法人 全国教育ボランティアの会）、監物一男会計部長（私塾ネットセンター）、皆倉宣之代表（塾教育研究会）、菅谷友豊香事務局次長（全日本学習塾連絡会議）の順で、詳細な発表がありました。

このあと20分間で、『教育ネット要覧』十周年記念誌発刊報告、平成21年度『要覧』の決算報告、監査報告、『学習塾百年の歴史―塾団体五十年史』の進捗状況、『要覧』アンケート集計結果などが佐藤勇治編集長より一括して報告がありました。

最後に、安藤進理先生の閉会挨拶のあと、次回第94回全日本学習塾連絡会議を11月下旬に開催することが決まりました。

２　社団法人 全国学習塾協会

平成22年度　通常総会、研修会、懇親交流会
（１）日　時：平成22年6月13日(日)／13：00
（２）会　場：アルカディア市ヶ谷7階「白根」
（３）出席者：総会出席者28名、委任状提出者
274名合計302名（会員数574名）
（４）議　事：平成21年度「事業報告」、
平成22 年度「事業計画」ほか

３　私塾協同組合連合会

2010　第19回　全国研修大会
主幹：埼玉県私塾協同組合
テーマ「子ども教育最前線」
（１）日　時：平成22年6月6日(日)
14：30－20：00
（２）会　場：パレスホテル大宮
研修大会4階・ 懇親会3階
（３）出席者：私学・私塾・企業関係者　70名
（４）内　容：第１部　基調講演
テーマ「地域ぐるみで子どもの教育に取り組む環境づくりの推進と学習塾の役割」
講師　文部科学省　生涯学習政策局生涯学習推進課　民間教育事業振興室室長　根本幸枝氏
第２部　パネルディスカッション
パネラー　山本チヨエ様、久保田一郎様、河合孝充様、菅原明之様、伊地知広竹様飯岡幸一様、荒井裕司様、中川祐子様
（NPO私立法人、私立学校、公立学校、サポート校、保護者など多彩なメンバー）
第３部　18：00－20：00　3階チエリー西
私立学校、企業、学習塾の関係者が出席

４　NPO法人 全国教育ボランティアの会

東京都調布市
第21回「生きいきワクワク体験・親子の集い」
（１）日　時：平成22年7月11日(日)
10：00－18：00
（２）会　場：調布市市民プラザ「あくろす」
2階　会議室１、はばたきホール　3階　調理室、研修室１、研修室２の５会場で実施
（３）参加者：講師、ご来賓、ボランティア、子ども（小学生、中学生、高校生）、保護者
合計251名
（４）内　容：ミニプラネタリウム作り、コンニャク作りと試食（田楽とさしみコンニャク）、天文教室
（５）主　催：NPO法人 全国教育ボランティアの会
（６）後　援：文部科学省、調布市教育委員会、
調布市社会福祉協議会
（７）協　賛：東京電力株式会社、市民活動支援センター、調布ＦＭ放送株式会社

５　その他の団体行事

平成22年(2010)度『私塾・私学・企業　教育ネット要覧』≪第10集≫十周年記念誌（6月10日発行）の11頁～24頁に、全国41学習塾団体の平成22年度「行事予定」が掲載されています。
本書は、全国2267本部塾に配布済みです。今回はそちらをご覧下さい。

会計部報告　会計部部長・監物一男

会員の皆様には、日頃よりいろいろとご協力いただきありがとうございます。今年度も賛助会員の方々と各エリアのご協力を得て、会計部を担当してまいりたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申しあげます。
さて、早速ですが22年度もセンター会費の徴収を行っております。つきましては、各エリアごとに、センター会費を集めさせていただきたいと思います。詳細は、エリア代表ないしはエリア会計担当にお問い合わせください。

エリア代表者
エリア東北　畑山篤（志学舎）
エリア関東　仲野十和田（ナカジュク）
エリア中国　佐藤将紀（若竹塾）
エリア四国　寺嶋謙次（学習院セミナー）
又、北海道、エリア東北（青森以外）、エリア中部、エリア近畿、エリア九州に於きましては、センター会計部より、直接会費を集めさせていただいております。後日、個別にご案内をお届けいたしますので、ご確認ください。
尚、詳細やご不明な点は、センター会計部　監物一男（048-688-6903向学館内）までお問合せください。

【郵便振替でご送金の場合】
以下の郵便口座までご送金ください。
（口座番号）0230－6－0068820
（口座名義）全日本私塾教育ネットワーク
【銀行振替でご送金の場合】
埼玉りそな銀行　七里支店
普通預金　4413316
（口座名義）私塾ネット　会計部長　監物一男
以上、よろしくお願い申しあげます。

私塾ネットセンター　事務局通信

蒸し暑かったり、涼しかったり、所によっては大雨が続いたりと、天候不順なこの頃ですが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

私は、ぎっくり腰をやってしまい、数日は仕事を休まざるを得ず、また１ケ月近く片足を引きずっていました。

ぎっくり腰がやっと良くなったかと思ったら、今度は夏風邪。お腹をやられて、数日は何も口にできず、この原稿を書いている今現在でも、お粥を啜っている状態です。

そのような訳で、仕事が溜まりに溜まってしまい、力が入らない体に鞭打って頑張っています。

さて、以前からご報告している職業訓練の講座ですが、お陰さまでここのところ欠員も増えず、そこそこ順調に運営できています。

私も久しぶりに「総務と経理」という講座で教鞭をとっています。とっつきにくい両者を如何に興味を持ってもらえるようにするか、工夫が必要ですが、やっと「総務」の授業が終わりました。会社側の立場での説明ですと、つまらないものになりそうだったので、雇用される側からの視点で授業を進めたところ、そこそこ興味を持っていただけたようで、最後は弥生給与の体験版を使って、給与計算・賞与計算・年末調整まで行い、給与明細や源泉徴収票を各自に印刷してもらい、効果測定としました。

次回からは「経理」の時間になります。「総務」の方が、自分の待遇や給与に直結するので、前述のように「雇用される側からの視点」で授業ができるのですが。「経理」はそうはいきません。以下に工夫するか、今から作戦を考えています。

それ以外の授業はすべてＡＪＣさんにお願いして講師を派遣してもらっていますが、一部を除いて大変満足しています。50分当たり4,500円の時給なので、「高すぎる」という見方もあるようですが、例えば税理士等に講座を依頼したら、これではとてもすみません。

もちろん「4,500円も払いたくないな」と思う講師もいましたが、平均すれば納得できる範囲と思っています。

（センター事務局　石川維雪）

閑話休題

編集長　谷村志厚

31号もなんとか発行予定日に間に合った。30号が5月発行だったのだが、カレンダーの都合上31号は7月発行となり記事集めに苦心した。夏期講習前の気ぜわしい時期に、原稿を寄せていただいた皆さんに感謝したい◆さて、来年は私塾ネット設立10周年の年にあたる。私塾ネットセンターでは2011年4月24日を記念式典の開催日と予定し、準備委員会を立ち上げた。立場上小生が準備委員長ということになり、首都圏メンバーを核に、記念事業と記念式典の準備に着手している。そんなこともあって広報のバックナンバーを取り揃えてみた。13ページの写真を参照いただきたい。A4サイズの小冊子だがさすがに30号を積み上げると、その重みに感激する。2001年の創刊号から6号まではエリア関東の加藤さんの編集。7号から22号までは広報担当は鈴木現理事長、23号から現在までは大住さんが担当だ。この間編集作業を平林さんから小生が引き継いだが、7号以降の印刷と製本は一貫して当方が務めさせていただいた◆ところで、当地松戸からも東京スカイツリーを見ることができる。現在400mを超えた段階だが、日々に伸びゆくその威容には、人を元気づけ勇気づける力がある。それにあやかって10周年の行事を、スカイツリーのおひざ元である浅草で開催したいなどと思ってはいるのだが…はたして思惑通りゆくだろうか。

フォート・ほっとコラム

熱　＜夢を追い求めるエネルギー＞

人は夢を持ちながら生きています。そしてその夢は人生においてうまく実現できる人と残念ながらかなえられない人とがあります。

先日、宇宙に飛んだ宇宙飛行士の山崎さんは自分の夢をかなえることができた一人で、彼女は夢の実現のための計り知れない努力と幾多の困難を乗り越えて手にすることができたのでしょう。

こうした努力と困難を乗り切るエネルギーはどこから生まれてくるのか考えたことがありますか。人それぞれの潜在能力とか性格とかあるでしょうが、それよりもそれは「夢に対する思いの強さ」にあるような気がします。思いが強いほど思いのエネルギーが強い情熱に変わり、その情熱が困難を乗り切るための努力を可能にし、夢の実現へと導いてくれるのではないかと思います。

しかし、ほとんどの人は誰も夢を抱き、その実現のため一生懸命努力を重ねながらも、夢半ばにして一生を終えることになります。だからといって夢を持つことは無駄ということにはなりません。少なくとも夢に向かって努力したことで充実した日々を送ることができたはずですし、人生の終わりに「幸せな人生を生き抜くことができた」と言い切ることができるに違いありません。叶う、叶わないにかかわらず、これからも夢を追い求める人生を送りたいと考えるのですが・・・・。

ところで、「私の夢は何だったかな？」。

残り少ない人生の中でもう一度自分の夢を探しに出かけ、「熱く生きたい」と思うこのごろです。

熱　＜エネルギーは強く思うことから生まれてくる＞のかな。

文＆写真：城忠道・エリア中国・芸城学院）

賛助会員一覧（順不同）

関東国際高等学校　村山ｻﾝﾄﾞﾗｰ先生
東京都渋谷区本町3-2-2　TEL03-3376-2244

江戸川学園取手中学高等学校　竹澤　賢司先生
茨城県取手市西1-37-1　TEL0297-74-8771

十文字中学高等学校　夘木　幸男先生
東京都豊島区北大塚1-10-33　TEL03-3918-0511

東洋高等学校　野間　一夫先生
東京都千代田区三崎町1-4-16　TEL03-3291-3824

桜丘中学高等学校　品田　健 先生
東京都北区滝野川1-51-12　TEL03-3910-6161

聖徳大学附属中高等学校　川並　芳純先生
千葉県松戸市秋山600　TEL047-392-8111

麹町学園女子中高等学校　大野　博人先生
東京都千代田区麹町3-8　TEL03-3263-3014

春日部共栄中学　宇野　禎弘先生
埼玉県春日部市上大増新田213　TEL048-737-7611

大成高等学校　森　保　先生
東京都三鷹市上連雀6-7-5　TEL0422-43-3196

東京学園高等学校　須藤　勉　先生
東京都目黒区下目黒6-12-25　TEL03-3711-6641

東京立正中学高等学校　藤井　教戒先生
東京都杉並区堀ノ内2-41-15　TEL03-3312-1111

八雲学園中学高等学校　横山　孝治先生
東京都目黒区八雲　2-14-1　TEL03-3717-1196

関東第一高等学校　副田　康孝先生
東京都江戸川区松島2-10-11　TEL03-3653-1541

武蔵野中学高等学校　丹野　秀彦先生
東京都北区西ヶ原4-56-20　TEL03-3910-0151

神田女学園中学高等学校
東京都千代田区猿楽町2-3-6　TEL03-3291-2447

和洋国府台女子中学高等学校　太田陽太郎先生
千葉県市川市国分4-20-1　TEL047-371-1120

東京文化中学高等学校　上前　善勝先生
東京都中野区本町6-38-1　TEL03-3381-0196

文京学院大学女子中学高等学校　嶋田　栄司先生
東京都文京区本駒込6-18-3　TEL03-3946-5301

京北学園中学高等学校　実方　隆志先生
東京都文京区白山5-28-25　TEL03-3941-6253

大森学園高等学校　矢部　一紀先生
東京都大田区大森3-2-12　TEL03-3762-7336

東京成徳大学中学高等学校　増澤　文徳先生
東京都北区豊島8-26-9　TEL03-3911-2786

日本工業大学駒場中学高等学校　河村　文夫先生
東京都目黒区駒場1-35-32　TEL03-3467-2130

青稜中学高等学校　笠松　芳幸先生
東京都品川区二葉1-6-6　TEL03-3782-1502

東京女子学園　実吉　幹夫先生
東京都港区芝4-1-30　TEL03-3451-6523

駒込中学高等学校　河合　孝允先生
東京都文京区千駄木5-6-25　TEL03-3828-4141

愛国中学高等学校　高橋　英夫先生
東京都江戸川区西小岩5-7-1　TEL03-3658-4111

日本橋女学館中学高等学校　羽田野　敦先生
東京都中央区日本橋馬喰町2-7-6　TEL03-3662-2507

安田学園中学高等学校　福谷　隆芳先生
東京都墨田区横綱2-2-25　TEL03-3624-2666

多摩大学目黒中学高等学校　福本　明男先生
東京都目黒区下目黒4-10-24　TEL03-3714-2661

科学技術学園高等学校　船津　和良先生
東京都世田谷区成城1-11-1　TEL03-5494-7711

日本音楽高等学校　中野　道代先生
東京都品川区豊町2-16-12　TEL03-3786-1711

立正中学高等学校　今田　正利先生
東京都品川区大崎4-2-16　TEL03-3492-4416

上野学園中学高等学校　高橋公美子先生
東京都台東区東上野4-24-12　TEL03-3842-1021

二松学舎大学付属高等学校　舘野　宏　先生
東京都千代田区九段南2-1-32　TEL03-3261-9288

村田女子高等学校
村田学園小石川女子中学校　武　雅祐先生
東京都文京区本駒込2-29-1　TEL03-5940-4187

自由学園（中等部・高等部）　椚田　結子先生
東京都東久留米市学園町1-8-15　TEL042-422-3111

帝京中学高等学校　大谷　幸男先生
東京都板橋区稲荷台27-1　TEL03-3963-4711

京華学園　今野　巌　先生
東京都文京区白山5-6-5　TEL03-3941-6493

千代田女学園　菅原　俊軌先生
東京都千代田区四番町11　TEL03-3263-6551

日出中学高等学校　寺本　郁夫先生
東京都目黒区目黒1-6-15　TEL03-3492-3388

目黒学院中学校　高山　松三先生
東京都目黒区中目黒1-1-50　TEL03-3711-6556

共栄学園中学高等学校　伊藤　裕先生
東京都お花茶屋2-6-1　TEL03-3601-7136

仙台育英学園高等学校　相良　信恵先生
宮城県仙台市宮城野区宮城野2-4-1　TEL022-293-1125

北海道芸術高等学校　鈴木　康弘先生
東京都豊島区池袋2-78-10　TEL03-5979-9095

(株)創開コミュニティー　小林　和光様
千葉県柏市柏2-7-22-202　TEL04-7164-6511

ギガビジョン株式会社　櫻井　淳二様
東京都千代田区九段北1-4-5　TEL03-3237-5861

ドラゴンフィールド㈱　和田　功様
東京都千代田区神田錦町3-23　TEL03-5282-3174

㈱パワーコンサル　山田　博史様
東京都豊島区東池袋1-21-11-7Ｆ　TEL03-5928-1686